

復活節第3主日

福音朗読 ヨハネ 21・1-19

2025.5.4 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

わたしたちは復活節の間、イエス様は時間や空間を超えていつもわたしたちとともにいる、弟子たちが体験したようにわたしたちもイエス様との出会いを体験することができる、という信仰を特に思い起こします。これは復活節の間だけではなく、毎日のあるいは毎週の日曜日の典礼が表現していることではありませんけれども、特にこの復活節の50日間はそのことをよく思い起こすように招かれているのだと思います。

今日の福音では、弟子たちが復活したイエス様に出会うという場面が朗読されました。弟子たちが、最初そこにおられるのがイエスだと分からなかったけれども、イエスだと分かったというのは、その人の言う通りにしてみたら思いがけない大きな恵みに出会ったという体験からだと言っています。これは、ヨハネによる福音の中では、弟子たちが何度か体験したしるしという不思議な出来事の思い出がそのベースにあると考えられます。

ヨハネによる福音書によれば、イエス様がなさった最初のしるしというのは、カナで結婚式の時にぶどう酒がなくなった、でも百リットルぐらい入る大きな水瓶6つに水を満たしなさいとイエス様がおっしゃった、弟子たちがその通りにすると、それは特別な上等なぶどう酒に変わっていた、というその出来事です（ヨハネ 2・1-11）。また、5千人以上の人が集まって食べ物がなかったときに、イエス様が人々を座らせなさいってお命じになって、弟子たちがその通りにすると、イエス様がそこにあつたわずかな食べ物を配られ、みんなが満たされた（ヨハネ 6・5-13）、そういう出来事が生前にイエス様と弟子たちが旅をしていたときにあつた、弟子たちの体験として福音書には出てくるわけです。そして、そういうことがあつて、復活の後、今度は漁に出て、船の反対側、右側に網を下ろしなさいと言われた通りにしてみると、多くの魚がかかった。だから今まで自分たちがイエス様と一緒にいて体験してきたことに基づいて、それがイエス様だ、イエス様がそこにいらっしゃるのだというふうに弟子たちが分かったという次第ですね。

瓶に水を満たしなさい。5千人の人を座らせなさい。船の右側に網を下ろしなさい。それぞれイエス様から言われたことは違うけれども、でもそれらが象徴しているのは1つのことと言えるでしょう。イエス様の言葉に従う。イエス様が命じておられるその言葉とは、最後の晩餐の時にはっきりおっしゃった、イエス様

がただ一つ弟子たちにして欲しいこととして言い残されたことですね。それは、互いに愛し合いなさいということです（ヨハネ 13・34）。

互いに愛し合うということは、わたしたちにとってそう簡単なことではない。大きな水瓶、たくさんの水瓶に水を満たすことや、たくさんの人をその場に座らせることや、魚の網を船の反対側に下ろし直すということは手間のかかることであることは確かですけれども、でも一方で全く不可能なことをしろと言われていたわけでもないということです。手間がかかるけれども、それをして見たならば、自分たちが思ってる以上の恵みに出会うことができる。それが神の業、イエス様が招かれている神の業なんだということを、この弟子たちの体験はわたしたちに示してくれているように思います。

一方で、自分たちができるけれども手間がかかる、簡単ではない、どっちを強調するかですね。互いに愛し合うということは、身近なところでできることなんだ。だけど自分の殻から一步出て、あるいは何かを変えていかなければならない、骨を折らなければならないということでは大変なことだし、色々な心配事や思^{わずら}い煩^{わづら}いがそれを妨げるということがあり得るわけです。

今日の福音の後半部分では、イエス様ご自身がおこされた炭火の前で、食事が終わった後、ペトロに「ペトロ、わたしを愛しているか」と3回イエス様が尋ねられたというエピソードが出てきます。これは、焚火の前で3度尋ねられる、イエス様が反対する人たちに捕えられたその夜に、焚き火の前で、「あなたもあの人の仲間ではないのか」と3回周りの人に問われて、「わたしはあの人知らない」と言ってしまった（ヨハネ 18・15-27）、そういうペトロの体験をもう一度やり直す機会へと招くために、イエス様が3度も問われたんだというふうに解釈されています。そういう意味では、イエス様が「あなたがわたしを知らないと言ったけれども、あなたがわたしを愛している、愛したいということはよく分かっているんだ。でも、だからこそ何度でもそれを表す機会を与えよう」という呼びかけとして捉えることができるのではないかと思います。

わたしたちに対してもイエス様は同じように何度も「わたしを愛しているか」、そして「愛しています」と答える機会を差し出されている。それはイエス様のみ言葉に従って互いに愛し合おうとする、そしてそれを実行に移そうとすることを通して答えることができる問いです。

でも多くの場合、それに答え損なう、イエス様とは関係ないような生き方をしてしまうのが、わたしたちの現実でもあります。でもイエス様はそのように愛し合わないあなたの中に愛がないわけではない、愛したくないわけではない、でもいろんな事情や恐れや、その罪への傾きによってそれが実行できないことはよく分かっている、だから失敗しても何度でも呼び続けるよ、というのがイエス様のみこころとして、今日ペトロが代表してその質問を受けましたけども、わたし

たちに向けられている呼び掛けとして受け取って良いのではないかなと思います。

わたしたちは絶えず一つのこと、イエスを通して互いに愛し合うように招かれて、そしてそのためだったら、イエス様ご自身がそこにいて、それをしようとするときにそこに恵みがあるんだということにわたしたちの心の目が開かれていく、イエスとの出会いが深められていくことを信じたいと思います。

そのようにして度々その呼び掛けに、イエス様の言葉に耳を傾けない、言葉の通りにしないわたしたちですけども、何度でも呼んでくださるイエス様の招きに信頼し、そして、そこにただ招くだけではなくて、実行していくことができる力を与えてくださる恵みが神様から来るんだということを改めて信じることを通して、信仰の歩みを、それがイエスとともに歩んでいき、そしてそこにおられるイエス様に会っていく歩みを深めていくことができますように、この復活節の典礼にあたって、信仰の思いを新たにしながら、互いのために恵みを願いたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>